

マーケットの動き (2022年1月18日～1月21日)

先週の米国国債市場は、前週末比で金利は低下しました（債券価格は上昇）。週の前半は米国の金融引き締め前倒し観測の高まりから、米国金利は上昇基調が続いていましたが、週の後半は米国株式の下落と景気減速懸念からリスクオフ姿勢が強まり、金利低下に転じました。ドイツ国債市場も、前週末比で金利は低下しました（債券価格は上昇）。

投資環境見通し (2022年1月)

長期金利は米国、欧州（ドイツ）ともに緩やかに上昇

米国：長期金利は、新型コロナウイルス「オミクロン型」の感染拡大による景気下振れ懸念に加え、FRB（米国連邦準備制度理事会）のバランスシート縮小議論への警戒感もあり、金融政策の先行き不透明感から方向感に欠ける展開が続くとみられます。しかしFRBは2022年は計3回程度の利上げを行うとみられており、今後の経済活動正常化の進展や景気の持続的な改善が確認されるとともに、長期金利は緩やかに上昇すると予想しています。

欧州：ドイツ長期金利は、短期的には新型コロナウイルスの感染動向と各国政府の対応などの影響を受けつつも、感染拡大が一服し経済活動の回復が確認されるとともに緩やかに上昇すると予想しています。

	1月21日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	1.75	▲0.02	0.27	0.47	0.65
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース（騰落率）	506.51	▲0.41%	▲1.40%	▲1.10%	2.95%

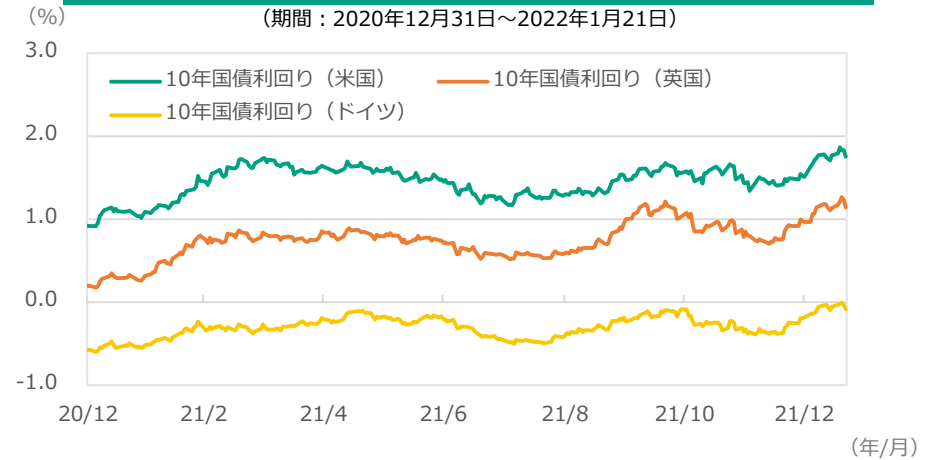
※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202201_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

主要国国債利回りの推移



FTSE世界国債インデックスの推移



※2020年12月31日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成